

・雨でも休まず、248回、249回・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動：11月2日（第一日曜日）：小原本陣の森・・・、弁当持参
  - \*ベテラン向き、担い手育成、技術向上、参加費400円、
- ・臨時活動：11月3日（第一火曜日。祭日）小原本陣祭（小原宿交流）参加費なし
- ・定例活動：11月16日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
  - \*一般むき、参加費400円、主食・自分の食器持、飲料水。
- .....
- \*注意事項1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
  - ・服装：汚れても良い服装、着替え・滑らない足元
  - ・持参：飲料水、成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、
- \*注意事項2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### ・木を伐る人にさえ 木陰を与える。

森林は 生き永らえるために  
何も要求せず その生命の生産物を  
無限に差し出す 限りない優しさと  
慈愛の特異な存在である

それは 全ての生き物を守り  
木を伐る人にさえ 木陰を与える

釈迦

12年間、“雨でも休まず・・・”と森に関わってきたが、どうにもならない事態が起こることもある。例えば4年前、どうしてのことで2ヵ月間、入院した。

その間、森仲間たちは「雨でも休まず・・・」とキッチリと活動を続けてくれたし、ニューズレターも発行してくれた。12年間の活動継続は、森仲間の“森を守るぞ！”との強固な意志の結果である。

その他に解散を考えねばならぬ事態もあったが、真剣に森林を心配する森仲間のおかげで、難なく切り抜け、その後は一層、取り組みは楽しくも厳しい姿に成長してしたと感じている。森林は、「全ての生き物を守り 木を伐る人にさえ 木陰を与える」深い慈愛の存在なのだという言うことを、度々、想い至らせてくれている。

人類は今、森林など環境問題にまじめに取り組まない結果、温暖化問題など大きな課題を抱えることとなっている。洞爺湖サミットが終わった途端、環境関連の報道が少なくなったが、神奈川県こそ、環境対策を小手先手法で対処してはならない。

参加者：岩澤（代表） 川田・石村【北相模】、佐藤（JFIK）他、常連4名、計9名

今回は、うす曇りの爽やかな天気恵まれて、いつもの場所、浅間の頂上直下の北斜面の下草刈りを行いました。ここは笹竹と蔓植物のからみあったジャングルのような密生部に挑戦、のこぎり一本で刈り取ってゆくのは結構、重労働でした。

どうも竹と蔓植物の間には協力関係があるらしいことを発見しました。蔓は竹を頼って上に這い登り、大きな木の枝に到達し、そこから木にシッカリからみつきます。今度は蔓が竹を引っ張り上げ、その支柱役になっているようです。そして、ジャングルのような密生地が出来上がっているのです。

今回は昼休みを利用して、対象地全域を把握するために、高麗山まで尾根伝いに歩きました。たくさんやるのを確認。また、タブノキ、むくの木、エノキ、市で類など立派な樹木の分布していることも確認できました。

小原本陣の森・定例活動・10月5日（第1日曜日）

Forest Nova 麻布大学1年 神宮 理沙

10月に入り、もうTシャツ一枚ではかなり寒く感じるようになってきました。今回の活動は午前、午後ともに経路作りの続きを行いました。

この活動日の一週間後に小原で自然観察会が行われ、自分たちで作った経路を通してその先までずっと登っていったのですが、まだ先がかなりあり驚きました。

経路の一番先からは中里山境界の黄色いテープがだいぶ見えるようになってきましたが、経路作りはまだまだ先が長いことがわかりました。

また、何人かは中里山付近のボサ刈りをお手伝いしました。アブラチャン・アオキを刈っていき、木に絡まってうっそうとしていた大量のツルも処理しました。

前回そこで石村さんがスズメバチに取り囲まれて大変だったのですが、同じ場所で巣が見つかりました。その巣は古くて、一番新しく見積もっても今年の春のものらしいので、石村さんが襲われそうになったハチとは違うものでした。

前回に引き続き、縦に切り捨ててある木を土留めにするために、斜面に平行になるように直して整理しました。

日が短くなってきているので、作業を終了して反省を行うとあたりはもう薄暗くなってきます。今回の作業はこれで終了です。



## 小原宿町内会に報告

女子学生が毎月、投稿してくれているが、了解を取って小原宿町内会に原文のまま毎月、届けている。都会から10人も20人も来て「山の中で何をしているのだろう？」と不思議に思っている人もいます。3年前から、私たちのありのままを知って頂くために。そのせいか、通りすがりに「ご苦労さん」と声をかけられたり、「持ってけよ」と堀タテ大根を頂くこともある。あの長いやつをぶら下げて電車に乗るのは、少しこっぴづかしい。(石村記)

## 若柳嵐山の森・活動報告・9月21日(第3日曜日)

報告 伊藤小夜子

大栗と野兎の穴

秋の森、ヒンヤリ清々しい空気に触れると何かシャキッと裁縫が活性化される感じ。この日の参加者は外学生が主流。学生連合ノバ12名、日大桜井研究室18名、森のたし県学校6名、一般参加16名、計12名。

桜井先生率いる日大生組は三班に分かれ、昨年からの森林の生態系などの調査。調査箇所に白テープ張りなど、基本的で簡単そうに見えても傾斜や藪の中をくぐって、正確に数字を出すには、いろんな知恵工夫、小道具がいる。桜井先生の明るいテキパキした声のもと、学生たちも機敏に務める、実地授業の真剣さ。

「ウサギ穴があるから、踏まないよう、気をつけて！」との優しい声かけも。一方、こちらはウサギ穴のあちこちに掘った穴を連続して撮影して、地図に記録している。佐々木ファール氏と齋藤学生のmこの穴も子育てのために逃げ道作りとか。学生は森活動のあちこちに分かれ良い感じで森に溶け込んでいる。独自活動調査、イベント準備、緑のダム作業の応援など。新基地z設営作業の合間に角田さんが鎌を研いでくれていた。

お昼は、青山さんと平沢さんのでカレースープとサラダが大好評(下準備・エンの下の石村ママには謝辞)。学生はイベントのための、まきで炊くごはんづくりのリハーサルで一生懸命挑戦。仕上げの火が強すぎて“難しーい！”多様な活動が、全体に溶け込んでいるのも、各班リーダーの力。初参加の体験学校の感想；「ハマりそう！(青木さん)」、「道具を使えて良かった(熊谷さん)」。土産に齋藤校長より見事な大栗が進呈された。

活動後・・・、今日もまた、駅前かどや会議で爽やかに酔った秋の夜、

## プレジャーフォレスト

旧ピクニックランドの経営が肩代わりして、伊豆急経営になりm施設名を「プレジャーフォレスト；愉快的森」と名を変えた。当会の「若柳嵐山の森」のちょうど裏側南斜面に位置していることから、何か提携する新f林活動はないかと永井支配人が視察に見えた。企業と手を結ぶことは、兼ねての課題である。

非営利活動と営利活動が協働することができるなら、また、何か面白い業態ができるかも知れない(石村記)

## 活動報告・Forest Nova

Forest Nova 麻布大学4年 滝澤 康至

### 第5回 川崎ネイチャーフェスティバルの報告

先月の会報で川崎ネイチャーフェスティバルの報告の記事がありましたが、私達も“木を使うことは森を守ることを発信する”“木を通して自然や森林の価値を高める”ことを目的に出展しました。

内容として、木の時計販売をメインに、望星高校の学生と竹でパウムクーヘンづくり、のこ引き体験を行いました。

材は私達で伐倒した嵐山のクリ(去年の11月)、名栗のヒノキ(去年の12月)を使いました。



#### 『人気の秘訣!』

昨年より3倍近く売り上げたのは、完成品を売るのではなく参加者がつくるようになったからだと思います。木の実や板の選び方も違って自分だけのオリジナルの時計ができるからだと思います。“世界にひとつだけの時計”というPRもいいかもしれません(笑)

#### 『森へ誘う木の時計の役割!』

私達は活動発信のためにチラシを渡して活動について説明すると、森で実際に活動していることに驚く人が多く、また関心を持ってくれました。

森に馴染みがない人は、森林整備の話より、自然体験の話に反応が良かったです。

小さい子供が行っても楽しめるの?という質問も多く、そういった企画をたてておくことも必要だと感じました。



詳しい報告書はこちらをご覧ください

Forest NovaのHP: <http://midorinodam.jp/forestnova/>

全国大学生環境活動コンテスト(エココン2008)出場決定

今年も出場します、応援してください!! HP: <http://www.ecocon.info/>

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名称 : NPO法人緑のダム北相模

事務局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人 : 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

HP : <http://midorinodam.jp> E-mail : [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)

協働団体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター) セブンイレブンみどりの基金

ご支援の団体 : WWF・JAPAN, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティJFEメカニカル、神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京